

満四歳児の數觀念 (承前)

東京女子高等師範學校附屬幼稚園

三

以上の檢定調査した結果に基き、男兒女兒につき檢定幼兒の實數並に各問を完全になした幼兒數を生年月に應じて列擧すると次の如くなります。茲に三月生とあるものには四月一日生のものも少數含まれてゐることを豫めお斷りして置きます。この表によつて檢定した幼兒の生年月の分配がどんな工合であるかが分りますし、成績がどんな有様かも大要お分りになりませう。

(A)、女 兒

生 年 月	幼兒數					
	第一(出來たもの)	第二(出來たもの)	第三(出來たもの)	第四(出來たもの)	第五(出來たもの)	六以上のもの
四 月 生	八	六	六	七	七	八
五 月 生	三	二	二	二	一	一
六 月 生	二	二	二	一	二	〇
七 月 生	八	五	七	五	二	一

(B)、更に男児について見ると

八月生	九月生	十月生	十一月生	十二月生	一月生	二月生	三月生	合計	幼児數	第一	第二	第三	第四	第五	六以上のもの
一〇	七	六	八	九	一二	四	九	八六	七	七〇	六七	五〇	四九	三四	一五
九	五	五	八	九	九	四	六	七〇	七	七	七	七	七	四	二
一〇	五	四	七	八	八	三	五	六七	二	二	二	二	二	一	二
九	五	四	五	六	六	二	二	五〇	七	六	六	七	七	七	四
八	三	三	四	六	五	二	四	四九	七	七	六	七	七	七	七
六	二	〇	三	四	三	二	一	三四	六	六	七	七	七	七	七
一	一	〇	一	三	〇	二	二	一五	四	二	四	二	二	三	三

6 5 4

月
幼児數

女
兒

(C)、之を左の如く三ヶ月毎に分けて見ます。

13		合	三	二	一	十	十	十	九	八
		計	月	月	月	二	一	一	月	月
			生	生	生	月	月	月	月	月
			生	生	生	生	生	生	生	生
10	1	九七	一〇	一五	一三	八	五	五	八	五
10	2	八九	八	一三	一一	八	四	五	八	四
11	3	八一	八	一二	八	七	三	五	七	三
9	4	七〇	八	八	七	七	二	四	六	三
11	5	六八	八	九	七	五	二	四	六	三
4	6	五二	八	五	五	四	二	二	四	二
		三七	四	一	二	四	二	二	四	二

四四

12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 12 11 10 9 8 7

男

兒

一八 一九 二三 二五 二三 二五

一七 一八 二三 一九 二三 一九

一五 一六 二三 一六 一九 二三

一三 一四 二〇 一〇 一五 一九

一一 一三 二〇 一一 一三 一六

八 九 一七 六 七 一〇

八 九 一三 四 四 三

	3	2	1
合計	九七	三八	三三
	八九	二八	二三
	八一	二四	一八
	七〇	二四	一八
	六八	二四	一八
	五五	一八	一七
	三七	一七	一七

四

以上の實數を比較するために歩合にて示すと次の如くになります

(A)、女 兒

十	九	八	七	六	五	四		
月	月	月	月	月	月	月		
生	生	生	生	生	生	生		
八三・三	七一・四	九〇・〇	六一・五	一〇〇・〇	六六・七	七五・〇	第一	
六六・七	七一・四	一〇〇・〇	八六・五	一〇〇・〇	六六・七	七五・〇	第二	
六六・七	七一・四	九〇・〇	六一・五	一〇〇・〇	六六・七	八七・五	第三	
五〇・〇	四二・九	八〇・〇	六一・五	五〇・〇	三三・三	八七・五	第四	
〇	二八・六	六〇・〇	二五・〇	一〇〇・〇	三三・三	一〇〇・〇	第五	
〇	一四・三	一〇・〇	一二・五	〇	三三・三	三七・五	第六	

(B) 男 兒

十一月生	十月生	九月生	八月生	七月生	六月生	五月生	四月生	平均	三月生	二月生	一月生	十二月生	十一月生
八〇〇	一〇〇	一〇〇	八〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	八一四	六六七	一〇〇	八一七	一〇〇	一〇〇
六〇〇	一〇〇	八七五	六〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	七七九	五五六	七五〇	六六七	八八九	八七五
四〇〇	八〇〇	七五〇	六〇〇	六三三	一〇〇	七五〇	一〇〇	五八一	二二二	五〇〇	五〇〇	六六七	六二五
四〇〇	八〇〇	七五〇	六〇〇	六六七	一〇〇	七五〇	一〇〇	五六六	四四四	五〇〇	四一七	六六七	五〇〇
四〇〇	四〇〇	五〇〇	四〇〇	五〇〇	一〇〇	七五〇	五六三	三九五	一一一	五〇〇	二五〇	四四五	三七五
四〇〇	四〇〇	五〇〇	四〇〇	五〇〇	一〇〇	五〇〇	二八六	一七四	二二二	五〇〇	〇	三三三	一二五

十二月生	一〇〇・〇	八七・五	八七・五	六二・五	五〇・〇	五〇・〇
一月生	八四・六	六一・五	五三・八	五三・八	三八・五	一五・四
二月生	八六・七	八〇・〇	五三・三	六〇・〇	三三・三	六・六
三月生	八〇・〇	八〇・〇	八〇・〇	八〇・〇	八〇・〇	四〇・〇
平均	九一・八	八三・五	七二・二	七一・一	五三・六	三八・一

(C)、更に三ヶ月に分けた歩合を示すと次の如くであります。

女 兒

四、五、六月生	八六・九	八六・九	八四・六	六九・二	八四・六	三〇・八
七、八、九月生	七六・〇	八八・〇	七六・〇	六四・〇	四〇・〇	一二・〇
十、十一、十二月生	九五・六	八二・六	六五・二	五六・五	三〇・四	一七・四
一、二、三月生	七六・〇	六四・〇	四〇・〇	四四・〇	二四・〇	一六・〇

男 兒

四、五、六月生	一〇〇・〇	一〇〇・〇	八〇・〇	八〇・〇	六八・〇	五二・〇
七、八、九月生	九四・七	八四・二	六八・四	五七・九	四七・四	四七・四
十、十一、十二月生	九四・四	八三・三	七二・二	六一・一	四四・四	四四・四

一、二、三月生 八四・二 七三・七 六〇・五 六三・一 四七・四 一八・四

五

以上の結果を見ると、

第一に生月が大に關係する有様が誠に明白であります。女兒に於ても男兒に於ても四、五、六月生のものは一、二、三月生のものよりも遙かに數觀念が発達してゐませう。これは至極當然なことで、滿四歳位の幼兒に於て半年以上の年齢差は身體精神の發達に著しき影響をもつことは申すまでもないことでもあります。それで同年齡の幼兒といつても實は身體の發育に於ても、精神の發達に於ても幼兒毎に大なる個人差があることを認めねばなりません。こんなことは誰でも承知してゐることのやうであります。が、一組として同年齡者を集めてゐると兎角劃一に考へる虞があることに警戒を要するのであります。

第二に四つまでを數へて箱の中に入れることが出來、また明白に四つまで數へることが出來る幼兒は滿四歳兒として普通であることが分りませう。勿論だつ兒であつて、數へることをしない幼兒もあり幼稚なるが爲に數へることが出來ないものもあり、また人見知りをするがために數觀念は發達してゐても發表せぬものもありますから、單純に數觀念が発達せぬとか、してゐると斷定することが出來ませんが、四を數へることが出來るものと五を數へることが出來るものとの歩合に著しい相違があることは注目し値するものでありませう。

第三に満四歳児では數の觀念が一般に女兒よりも男児の方が著しく發達してゐるものを認めることが出來ませう。右の調査では七、八、九月生の男児が女兒よりも劣つてゐる如く現はれてゐますが、その他は一般に男児の方が優秀な歩合を占めてゐることは男児の方が多く數生活をなすことが多く、自然の必要上數觀念の發達することを示すものと考へてよいと思はれます。

第四に五つまたは五つ以上を數へることが出来る幼兒は遙に男児に多いのであります。一般に四、五、六月生の幼兒よりも一、二、三月生の幼兒は劣つてゐますが、男児は五つ以上を數へ得る幼兒の歩合が四十%を超えてゐるが、女兒では二〇%を超えない位であります。

以上は僅少なる幼兒について調査した結果でありますから十分に信頼することが出來ない數値であります。しかし尙ほいろ／＼のことを斷定しても不都合がない結果にあると思はれます。これは兎に角東京市の幼兒についての結果でありますから全國にわたつての幼兒の數觀念の發達問題は勿論分りません。また満五歳満六歳と如何に變化するかも將來の研究材料であります。

月刊雜誌
(毎月第一日曜發行)

宗教教育 定價半年分一圓廿錢
一年分二圓廿錢

◎信仰とは一言すれば子供がもつて生れた宗教性を完全に教育するにある。

◎本誌は教界の先覺者及教育、宗教主導の新人諸氏多數の特別執筆による指導者には勿論一般家庭必讀の宗教雜誌である

發行所

シオ教育會

東京府巢鴨町宮下一六二三

振替東京七九一七一番